

# 新規事業採択時評価結果（平成16年度新規事業化箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：中島 威夫

<b>事業名</b> 一般国道156号 <small>ふくしま</small> 福島バイパス		<b>事業区分</b> 一般国道	<b>事業主体</b> 岐阜県
<b>起終点</b> (起点)岐阜県大野郡白川村福島地内 (終点)岐阜県大野郡白川村牧地内		<b>延長</b> 2.0km	
<b>事業概要</b> ： 当区間は岐阜県岐阜市と富山県高岡市を結ぶ主要幹線道路であり、第一次緊急輸送道路に位置づけられている。昭和30年代当初の御母衣ダム建設時に付け替えられた区間の未改良部をバイパスにて整備を行うものである。			
<b>事業の目的、必要性</b> ： 現道はダム開発時の付替道路であり、道路線形は屈曲が多く道路幅員も狭小である。事業区間内にトンネルが3箇所あるが、そのいずれも老朽化が著しく、大型車両のすれ違いが困難な交通の難所になっており、地元住民の生活にも悪影響を与えているため、早急の改良が望まれている。			
<b>全体事業費</b> 55 億円		<b>計画交通量</b> 3,100台/日	
<b>費用対効果分析結果</b>	<b>B / C</b> 1.9	<b>総費用</b> 49 億円 (事業費：47 億円 維持管理費：2 億円)	<b>総便益</b> 92 億円 (走行時間短縮便益：73 億円 走行費用減少便益：19 億円 交通事故減少便益：0 億円)
<b>感度分析の結果</b> ： 交通量変動：B/C=2.0 (交通量+10%) B/C=1.7 (交通量-10%) 事業費変動：B/C=1.7 (事業費+10%) B/C=2.0 (事業費-10%)			
<b>事業の効果等</b> ： ・国土・地域ネットワークの構築（現道等における大型車のすれ違い困難区間を解消する） ・個性ある地域の形成（観光地である世界遺産白川郷合掌造り集落へのアクセス向上が期待される） ・安全で安心できるくらしの確保（二次医療施設のある高山市へのアクセス向上が見込まれる） ・災害への備え（第一次緊急輸送道路ネットワーク計画に位置づけがある） 他13項目に該当(定量的評価項目を含む)			
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> ： 白川村道路活用委員会（道づくり委員会）、白川村区長会や村議会等においても、本路線の早期整備を要望する声は強い。また平成11年度福島保木トンネルの開通、平成15年度平瀬工区の完了により、同村の未改良区間が本工区のみとなり、早急な整備の要望が強い。			
<b>事業概要図</b> ： 			

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。